

HopStepJump 4 初任者研修第7回

<https://toyono-jinjikyo.com/>

第7回初任者研修は、大阪多様性教育ネットワーク共同代表の沖本和子先生を講師に迎え、「一人ひとりのもちあじは未来をつくるたからもの ～安心をつくる傾聴・信頼・尊重～」というテーマで研修を実施しました。多様な子どもたちがいる中で、それぞれの違いを間違いにしたり、優劣をつけたりするのではなく、豊かなもの「もちあじ」として捉え、尊重していく。そのためにも子どもたちが安心して過ごせる学級にするためにはどうしていくかということについて、たくさんのワークも含めて教えていただきました。

今回の講義では、子どもたちへの気持ちの伝え方や、子どもたちが安心できるための言葉かけや行動について学ぶことができました。「傾聴・信頼・尊重」が安心をつくるということは、これまでの学習からも理解はしているつもりでしたが、実際に学級経営を行っている現在、それを実践する難しさを感じていました。私自身、「個性を尊重し、それを互いに認め合えるクラス」を日々意識して集団づくりを行っています。そのため、今回、お話の中で提示していただいたルールの作り方や言葉かけの仕方など、具体的な活動が大きな助けになりました。

特に印象に残ったのは沖本先生がおっしゃった「違うから一緒にいるんだよ」という言葉です。一人ひとり違う成育環境、違う経験、違う価値観だからこそ一緒に過ごす。それによって、自分一人では知ることが難しかったようなことも、学校・学級で知ることができ、それを自分のものにすることができる。そういうことをこの言葉から感じました。違うからこそ一緒にいる。この考えは大切にしたいし、子どもたちに伝えたいです。

今回の研修のテーマにある「もちあじ」という言葉はとてもいいものだと思います。「長所」「短所」というと、どうしても「いいところ」「悪いところ」というイメージに結びついてしまいます。しかし、自分のいいところも悪いところも含めて全てが自分をつくっているもの＝「もちあじ」と捉えると、なんだか自分自身の嫌なところも認めようという気持ちになれました。

もめごとやトラブルが起こった時に win-win の解決をすることの大切さを学びました。トラブルなどはもちろん教員が終始入らないといけませんが、自分の行動を振り返ると、頻繁に入りすぎている気もします。教員が間に入ってその場を収めることは簡単なことかもしれませんが、子ども同士に win-win になる解決法を見つけていく経験をさせることもとても重要だと学び、今後の対応でいかしていきたいと感じました。

今回の講義の内容を踏まえて、「あなたメッセージ」ではなく「わたしメッセージ」を使っていたかどうか振り返ってみると、「これぐらいの問題はできないとあかんで」「これができないなら授業をしっかりと聴けていない」等の「あなたメッセージ」を使っていたように思います。これらの言葉は「これできていないから自分はいかんなのかな」と子どもに思わせていたかもしれません。だから、「この問題はみんなに頑張ることができるようになってほしいな」「この問題ができれば安心だわ」等の「わたしメッセージ」を意識するように心がけます。

講義の中で一番心を打たれたのは「ネズミ」の話です。内容を聞く中で「へー、そうなんだ。」と、メモを取っていましたが、「今、伝えたことが本当だと思いますか？」という先生の一言に「え？」というためらいの気持ちが生まれました。多くの人は自分が知らないことを教えてもらう時、疑いもせず、「へー、そうなんだ。」と聞き入れてしまいます。そして、自分もまた同じように他者に伝えようとするものだと思います。この軽い気持ちで広がってってしまう「うわさ」がいじめにつながり、被害者・加害者を生むということを先生の講義で身をもって感じ取りました。

最後の「真実ではないかもと感じたら」では、4つの立場のところが印象的でした。被害者は自分では選べない、変えられない立場だからつらい立場であるということにとっても納得しました。子ども自身がこのような考え方に気づくことで物事の見方が変わると思います。これまで深く考えてこなかったことを考えさせることで、新たな気づきや、多面的に考えるきっかけになると分かりました。

大阪府教育センターWeb ページよりダウンロードできるリーフレット「子どもたちが安心して過ごせる学級づくり」（大阪府教育庁）には今回紹介されたワークも含め、発達段階に応じた年間を通しての活動例が示されています。すぐに使える教材や資料もダウンロードできます。是非、活用してください。